



日本小児がん看護研究会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing

— JSPON —

News Letter



2008年3月

第7号

日本小児がん看護研究会も4月には、6年目に入ります。今年度は7月、3月とニュースレターを2回発行することができました。研究活動では、昨年8月に小児がんのケアガイドラインの第一案を作成しました。現在修正版を作成中です。今回のニュースレター第7号では、第4回関東地方研修会の報告、第5日本小児がん看護研究会の報告、第6回日本小児がん看護研究会のお知らせをいたします。

第5回日本小児がん看護研究会の報告

第5回日本小児がん看護研究会が、日本小児がん学会、日本小児血液学会とともに仙台で開催されました。

おかげさまで多数のご参加をいただき、有意義かつ活発な意見交換を賜り、盛会裏に終えることができました。これもひとえに研究会の皆様のご協力とご支援の賜物と心より厚くお礼申しあげます。

今回の研究会の成果が子どもたちとご家族の幸福につながればと願っております。

塩飽 仁（東北大学医学部保健学科）

- I. テーマ：トータルケアの原点に戻る－子供と家族の継続的支援－
- II. 日時：平成19年12月14日（金）、15日（土）
- III. 会場：仙台国際センター
- IV. 参加人数：約600人（全体で約1500人）
- V. プログラム

12月14日

- 特別講演1：『トータルケアのはじまり』
戈木クレイグヒル滋子氏（首都大学東京）
- 特別講演2：『いのちの尊さを考える－子どもに死を教えるとき－』
アルフォンス・デーケン氏（上智大学名誉教授）
- 一般演題 口演・示説発表

12月15日

- 教育講演：『小児がんの子どもへの継続的支援～長期入院後のこどもの復学のケア～』
有田直子氏（神奈川県立こども医療センター）
- シンポジウム：『子どもと家族の継続的支援』
シンポジスト
 - ・学校に復帰した子どもの母親の立場から：菅野桂子氏
 - ・学校教育における子どもと家族の支援：深瀬光子氏（仙台市立木町通小学校）
 - ・小児がんサバイバーと家族の課題と支援：上別府圭子氏（東京大学）

●一般演題 口演・示説発表

〈一般演題：口演〉（21題）

化学療法のケア

化学療法中の白血球減少時における食事基準の実態－食事に関するガイドライン作成に向けて－	神戸大学医学部附属病院 門倉美知子
化学療法中の食事管理基準の作成と評価	広島大学病院 龍地正和
前処置中にクライオセラピーを施行した小児造血細胞移植患者11例の検討	防衛医科大学校 石丸陽子
化学療法を受けている子どもと家族の感染予防行動への支援－感染予防プロジェクトチームの活動を通して－	広島大学病院 蔵田弥生
学童が外来で化学療法を受けながら自宅で生活する体験における「治療優先の生活を続けるための方略」	静岡県立静岡がんセンター 平山五月

退院と退院後の支援

栄養管理が必要となった児の、復学・退院を支えた母との関わりを通して	静岡県立静岡がんセンター 坂口始子
臍帯血移植後児童養護施設で暮らす学童の退院指導	長野県立こども病院 白石真樹子
小児がんの子どもと家族への復学に向けてのケア～復学のパンフレットおよびケアマニュアルの作成に向けて～	神奈川県立こども医療センター 秦 裕美
こども同窓会－小児病棟を退院した患者・家族への支援－	聖路加国際病院 吉川久美子
小児がん経験者が仕事を続けるための対処行動	東京大学大学院医学系研究科 福井郁子

プリパレーションと家族支援

絵本による病棟オリエンテーションの入院生活適応への効果	東北大学病院 齋藤裕子
学童期の子どもを対象にしたプレパレーションの検討	大阪府立母子保健総合医療センター 岡田朋彦
無菌室入室中の患児と母親の望む看護	東北大学病院 猿田聡子
急性リンパ性白血病（ALL）を発症した児をもつ母親の思いに対する実態調査	宮城県立こども病院 落合達郎
小児がんの子どもを持つ家族の関係性の変化－小児がんと診断されてから在宅生活まで－	熊本赤十字病院 城下智世

ターミナルケアとケアガイドライン

看護学生と薬学生の告知に関する認識	日本赤十字秋田短期大学 森 美智子
ターミナル学童児の成長発達と 保育士の役割 ～チーム医療の中で～	東京慈恵会医科大学 附属病院 上倉郁絵
入院中の小児がんの子どもの 母親への看護外来における 看護介入報告	宮城大学 遠藤芳子
終末期にある小児がん患者と家族 に対する在宅への援助を振り返る	帝京大学ちば総合医療 センター 穴見康代
患児への予後告知に葛藤する両親 への援助ーターミナル期にある 青年期患児の事例を通してー	富山大学附属病院 今泉早映
小児がんをもつ子どもと家族の 看護ケアガイドラインの 開発と検討	長野県看護大学 内田雅代

〈一般演題：示説〉（21題）

家族看護

子どもを亡くした後も病院へ足を 運ぶ母親の思い	昭和大学藤が丘病院 紅粉真衣
同胞間造血細胞移植における両親 の意思決定プロセスの支援の検討	群馬大学医学部附属病院 前原紗織
陽子線治療を受ける子どもの家族 が体験する思いと看護ケアの検討	筑波大学附属病院 田村恵美
患児・家族のQOLを高める 短期入院治療に必要な家族看護ー 看護師の視点からー	国立がんセンター中央病院 池田奈保子
小児がんの子どもと家族への ケアにおける困難ー看護師への フォーカスグループインタビュー 調査の結果ー	千葉県こども病院 小原美江

連携による支援

小児病棟に保育士を導入して （現状と課題）	神戸市立医療センター中央 市民病院 三浦 礼子
幼児期に発症した白血病児の通学 開始までの家族の関わりー小1の 年度途中に学校生活を開始した 2事例を通してー	秋田大学 三戸真由美
小児がん病棟における看護師と 院内学級の教員との連携	国立がんセンター中央病院 後藤亜紀子
地域に根ざしたがんの子どもの 教育支援システム構築のためにー 養護教諭対象の研修会を開催して （第1報）ー	浜松医科大学 大見サキエ
地域に根ざしたがんの子どもの 教育支援システム構築のためにー 小学校教員対象の研修会を開催し て（第2報）ー	浜松医科大学 大見サキエ

食事と口腔ケア

がん化学療法後の加熱食パンフレ ットの作成と指導要項の見直し	岩手医科大学附属病院 陳場智恵
化学療法を受ける患児の口腔炎 発生と白血球数との関連	奈良県立医科大学附属病院 大牟田美幸

血液腫瘍病棟における口腔ケアの 実施状況の変化と今後の課題	茨城県立こども病院 小磯智子
化学療法中患児の口腔ケアに 関する意識調査	岩手医科大学附属病院 昆 由美子
化学療法中の口腔ケアの再検討ー 生理食塩水含嗽への変更に向けて 家族の気持ちを考えるー	群馬県立小児医療センター 大須智恵

看護ケア

乳幼児のC Vカテーテル用固定具 の検討	大阪市立総合医療センター 小嶋留美
がんをもつ子どもに対する マッサージの効果	兵庫県立こども病院 濱田米紀
白血病患児へのプレパレーション の取り組み	名古屋第二赤十字病院 今井真由美
紙芝居を用いた髄腔内注射の説明 の定着へ向けて 第一報ー看護師 からの意見を取り入れた紙芝居の 修正ー	埼玉県立小児医療センター 山本陽子
小児がんで化学療法を行なった 患者の入院記録からみた看護診断 の変化ー2000年と2007年を 比較してー	大阪大学医学部附属病院 井口和江
小児がんの子どもの入院生活への 適応とその支援	岡山大学病院 藤山 萌

敬称は省略させていただきました。



演題番号 N03-1「絵本による病棟オリエンテーションの入院生活適応への効果」（プログラム・総会号 262 ページ）で用いられた絵本は、絵本作家の方がボランティアで製作して無償提供したものです。抄録や発表では研究者やその所属先が製作したという誤解を招きかねない表現となっておりますのでお詫びして訂正させていただきます。
研究で使用した絵本は、文・構成：おおぬまいくこ、絵：本田 幸『ダイガク・ビューイン号へのあんない』です。この絵本は『トーホクダイガク・ビューイン号へのあんない』に改訂されて発刊される予定です。

（塩飽 仁）

+++++

第4回関東地方研修会の報告

2007年8月27日（月）、成育医療センターを会場に「小児がんのこどものQOL」のテーマで開催され、113名の参加がありました。午前中は、前日26日（土）に東京医科歯科大学で開催された「小児がん等のターミナ

ル期における教育・看護・医療に関する国際フォーラム」にシンポジストとして来日された2名の講師に、同フォーラム主催者の一人丸光恵先生のご尽力により、講演していただくことができました。イタリア・ボローニャ大学の小児科医長・精神科医ドレラ・スカルポーニ先生からは「処置への非薬理学的アプローチ」、アメリカ・セントジュード小児病院看護研究部長、パメラ・ハインズ博士からは「小児がんのこどもの QOL」のテーマでお話いただき、それぞれ研究に基づく実践から深い洞察に満ちた講演で今後の日本における小児がん看護の実践・研究に大きな示唆を得ることができました。

午後は、小児がん看護研究会研究グループによるシンポジウムで、実践と研究成果、文献の検討などの膨大な努力によって作成された「小児がん看護ケアガイドライン」第一試案の完成を記念してシンポジウムを行いました。小児がん経験者の立場から、小児がんネットワークMNプロジェクト代表小俣智子氏、家族の立場から、菜の花会代表井上富美子氏、ソーシャルワーカーの立場から、聖路加国際病院西田知加子氏、医師の立場から、国立成育医療センター血液腫瘍科長、森 鉄也氏、看護師の立場から神奈川県立こども医療センター専門看護師有田直子氏に、小児がんの治療を受けた経験、ケアを行う経験、ガイドラインの持つ役割や注意点などについてお話いただき、会場とのディスカッションを行って、今後のガイドラインの修正点や、活用する方法などについての方向付けを得ました。(梶山)



SIOP2007-インド・ムンバイに参加して

SIOP2007には、医師、看護師、その他の医療職など約1400名が参加、そのうち140名がナースの参加者でした。日本からは臨床ナース2名を含む10名の看護師が参加しました。

基調講演は、アメリカ・ニューヘブレン大学の Shiela Santacroce 氏による「Getting on Living—小児がん経験者へのサポートにおけるナースの役割」でした。研究に基づく長期フォロー・プログラムの実践に関する大変興味深い内容でした。口演は21題、ポスター発表が17題でそのうち2題が日本からの発表でした。小児がん経験者との「患者から助言者へ」のテーマによるジョイントセッション、親の会とのコミュニケーションに関するジョイントセッションも興味あるもので看護の新たな課題が明らかになりました。ラウンド・テーブル・セッションは、「緩和ケア」、「移植」、「症状マネジメント」、「小児ケアから成人ケアへの移行」、「さまざまな年齢のこどもたちとのコミュニケーション」、「代替療法」、「疼痛マネジメント」の7つのテーマに別れてそれぞれのテ

マに関するファシリテーターの報告とディスカッションが行われました。

看護師と他職種のための病院ツアーでは、Mumbaiにあるがん専門病院である Tata memorial hospital に行きました。大人の病棟は開放病棟で、まさにナイチンゲールの看護学言論に記述されているような環境でした。小児病棟には、プレイルームやクリーンスペース（クリーンのスペースなのでという理由で、靴にカバーを掛けることを求められましたが、病室の窓は開放されていましたが）はありましたが、エアコンの設備はなく、病室の窓は開放されており、扇風機が回っているだけでした。輸液ポンプは、抗腫瘍薬を使用するときのみ用いるとの説明でした。

インドは、ITで注目され非常に発展した豊かな部分と、地方から職を求めて大都市にやってくる多くの人々がスラムや路上で生活し、幼い花売りや物乞いのこどもたちも町でよく見かける貧しい部分が混在していました。長い歴史と豊かな文化や、質素でも楽しそうな生活などが、さまざまな色彩とにおいと喧騒の中に混りあっているという印象でした。

食物や気候の面ではなかなか厳しく、体調を崩した参加者もありましたが、学会での収穫とインドの不思議な魅力をも堪能した SIOP 参加となりました。(梶山／小川)



〔研究活動報告〕

「小児がん看護ケアガイドライン（第一試案）」

完成とその後

平成 16-19 年度の科学研究費補助金をうけ、ケアに携わる看護師の支援を目的とした「小児がんをもつ子どもと家族の看護ケアガイドラインの開発と検討」を、日本小児がん看護研究会の研究活動と位置づけ、取り組んできました。このガイドラインは、子どもの小児がん発症直後から治療終了後のケアまで、医療・教育・福祉・地域の連携を視野に入れて、看護としてどのようなことが求められているのか、看護師がどのようなことに困難を感じているかを踏まえ、作成したいと考えました。これまで、小児がん看護のケア環境やケアに携わる看護師の認識等に関してわが国の小児がん看護の実態を知るための基礎的な調査や文献検討を基に、小児がん看護ケアガイドラインの開発と検討をしてきました。

ガイドラインは、子どもの命に関わる厳しい治療現場にいる看護師にとって、ケアのよりどころとなるものをできるだけ明確にしていくことで、日頃のケアを見直す機会となり、看護師が現在行っているケアに自信をもつことができ、病棟で習慣的になされているケア、十分には実施されていないケアや予防的な対応を、子どもや家族の立場から見直しをするなどを通じて、小児がんをもつ子どもや家族へのケアの質の向上に繋げていきたいと考えます。

平成 19 年 8 月に「小児がん看護ケアガイドライン（第一試案）」を作成し、第 4 回関東地方研修会で配布・説明

し、内容に関して参加者から意見をもらうとともに、配布3か月後にも調査をしました。その中で、いくつかの修正すべき点や課題などが明らかになりました。平成20年4月には、「小児がん看護ケアガイドライン（208年版）」として皆様に提示できるよう、現在できる範囲での内容の改訂作業をしております。今後、エビデンスのある看護ケアの指針をめざし、臨床看護の実践知を記述し構築していく取り組みやケアの検証等、さまざまな実践的な研究の必要性を痛感しています。今後も、皆様と一緒に検討を重ね、よりよいガイドラインにしていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（内田雅代）

1. 第6回日本小児がん看護研究会のお知らせ



下記の要領で、第6回日本小児がん看護研究会を、聖路加国際病院小児病棟が担当となり、開催させていただくことになりました。

昨年度に引き続き、日本小児血液学会（大会長 土田昌宏先生）と日本小児がん学会（大会長 細谷亮太先生）、がんの子どもを守る会との同時期開催となります。メインテーマは、2007年度からの継続テーマである「トータルケアの原点に戻る」であり、サブテーマは「最先端医学と医療との融合」となりました。

看護立場から見ると、非常に難しいテーマのように感じられますが、医療が高度化している現在、臨床現場では、プロトコールに沿った治療のみならず、臨床試験段階の治療薬などを使用した治療方法が行われております。また、患者・家族ともに、治療する可能性があるのであれば、可能な治療をすべて受けたいという気持ちで治療に望んでおり、患者・家族の気持ちを思い、看護師も、看護師も日々ケアについて悩み、格闘しています。

第5回の小児がん看護研究会開催中に参加者の皆様にご協力いただきましたアンケートの意見を参考に「テーマセッション」を設けることを企画するとともに、シンポジウムの内容の検討を進めております。高度化する医療現場で仕事をしている看護師の皆さん、また一緒に仕事をしている方々にとって、知りたいこと、悩んでいることなどたくさんあることと思います。ぜひ、研究会に参加していただくと同時に、皆様の病院で行われている看護について発表していただき、意見交換できたらと思います。

会員の皆様の方の演題のご応募、ご参加を心からお待ち申し上げております

日 時：平成20年11月14日（金）～16日（日）
テーマ：トータルケアの原点に戻る
会 場：幕張メッセ 国際会議場
研究会長：吉川 久美子（聖路加国際病院）

* 詳細につきましては、決まり次第
研究会のホームページに掲載
しますので、ご確認ください。

2. 第5回小児がん看護研修会のお知らせ

日 時：平成20年8月30日（土）

場 所：国立成育医療センター

テーマ：長期フォローアップの現状と展望～看護の役割を
考える～

詳細につきましては、決まり次第ご連絡する予定です。

3. 小児がん公開国際シンポジウムのお知らせ

5月21日～24日までの日程で、アジアで初めての国際神経腫瘍学会が幕張で開催されます。今年から看護師の参加も認められ、看護師のポスターセッションも行われる予定です。（<http://www.anr2008.com/>）

最終日の24日には、「地球規模の小児がんケアとケア」というテーマで、公開国際シンポジウムが行われます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（<http://www.accl.jp/2008IOSCCS/>）

4. 第40回国際小児がん学会（SIOP）

10月2日（木）～6日（月）の日程で、第40回国際小児がん学会が、ベルリンで開催されます。諸外国から多くの臨床看護師、医師、MSW、臨床心理士、本人、家族などの様々な立場の人が集まる学会です。今年は、学会の前に「オランダ」に寄り、卒後教育や緩和ケアの現状などについて研修をするコースも準備しております。詳細につきましては、グロリアツーリスト渡辺さんまで（t.watanabe@gloria-tourist.co.jp）ご連絡ください。尚、抄録の申し込みは3月20日までとなっております。（<http://www.siop2008.de/>）

〈平成20年度年会費納入について〉

平成20年度の年会費の振り込み用紙は、年度が替わってから送付させていただきます。2月中にご連絡させていただきましたが、平成19年度までの年会費をお支払いいただいていない会員の方は、3月中に下記口座にお支払いください。また、氏名、住所、所属などの連絡先に変更がありました方は、FAX またはメールにて研究会事務局までご連絡ください。

なお、ご不明な点がございましたら、研究会事務局（TEL/FAX：0265-81-5186・5184）まで、お問い合わせください。

会費振込先：郵便振替口座 00590-9-79689
口座名称： 日本小児がん看護研究会
年会費：5000円

研究会事務局
長野県看護大学 内田雅代

E-mail：masayo@nagano-nurs.ac.jp

TEL/FAX:0265-81-5184

日本小児がん看護研究会機関誌編集担当

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学看護学部 小児看護学教育研究分野

小川純子

E-mail：junogawa@faculty.chiba-u.jp